

平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 10 月 4 日
枚方市立楠葉西中学校

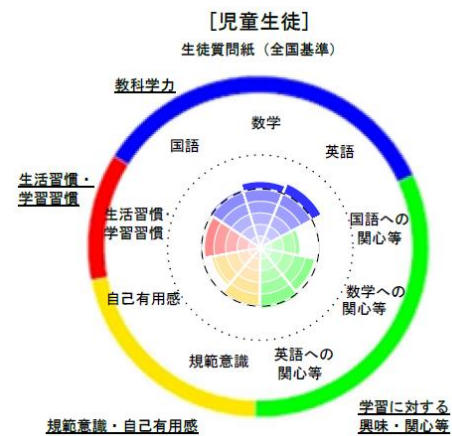
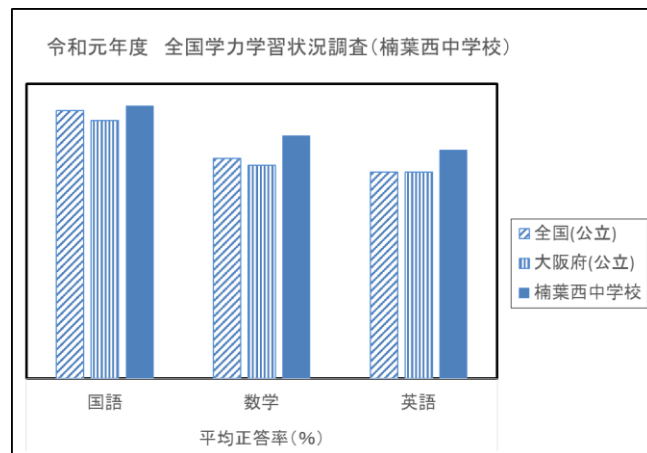
文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校の全国や府の平均値の比較をお知らせします。（※今年度より、A・B問題が一体化されました。）



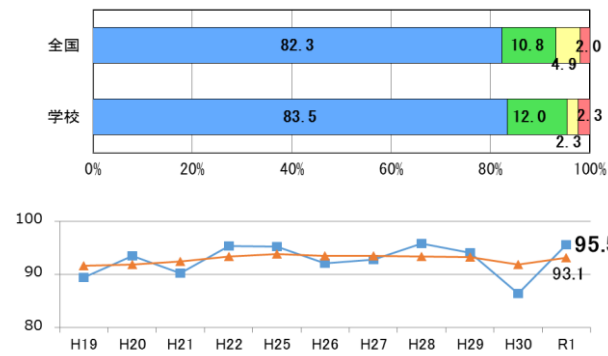
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。

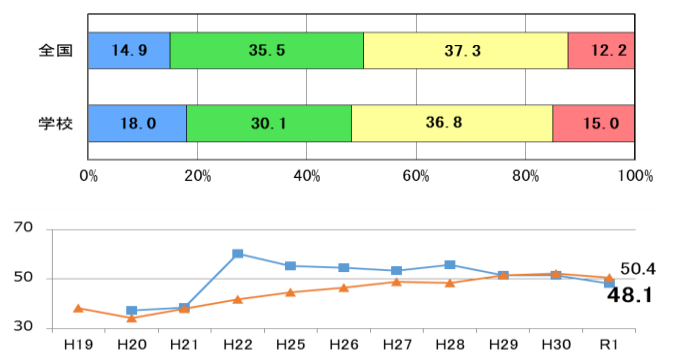
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



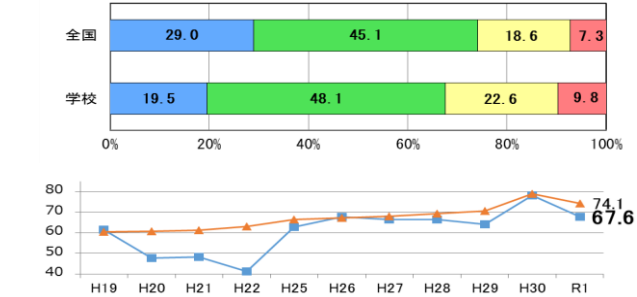
朝食を毎日食べている



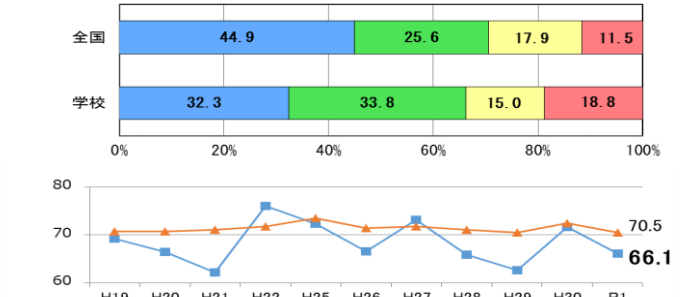
自分で計画を立てて勉強している



自分にはよいところがある



将来の夢や目標を持っている



※本調査は、平成 19 年度から実施されています。
※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。
※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

まとめ

学力調査の平均正答率においては、例年通りの割合で全国・大阪府の平均を上回った。また、本校の課題であった自己有用感についても、少しずつではあるが改善されてきている。班活動を中心とした取組が思考力、判断力、表現力を高めさせ、自分の自信にもつながっていると思われる。ただ、学力面の結果については、知識の定着に十分な時間がかけられなかったことが結果につながった。今後更に授業改善をすすめ、生徒の思考力・判断力・表現力を培うとともに家庭学習を充実させるなどして、知識理解の定着を図っていく。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

< 学力調査結果の概要 >

○国語について

領域別・観点別・問題形式別すべてにおいて大阪府平均を上回った。しかし全国平均と比べると一部下回る結果となった。封筒の書き方については、授業で葉書などの書き方に取り組んだことがあったため平均を超えたと考察される。一方で、短歌の鑑賞文については授業で取り組む機会が多いものの苦手とする生徒が多く、まだまだ課題があると思われる。

○数学について

領域別・観点別・問題形式別において、すべて全国・大阪府の平均正答率を超えた。特に、関数についてはかなり高い正答率となった。問題別に見ると、苦手としていた関数では、おおむね良くできており、正答率が全国・大阪府ともに大きく上回る結果となった。資料の活用については、8(3)の問題で正答率が低く、問題解決するためにどのような代表値を用いるべきかを判断する問題に課題があった。

○英語について

領域別・観点別・問題形式別において、おおむね全国・大阪府の平均正答率を超えた。特に、社会問題を読み自分の意見を書く難度の高い記述式に大きな成果が現れた。日頃の授業から、教科書で扱われている各ユニットのテーマを深く読み考える習慣と、4人班活動で学びあい教え合いながら作文を練習してきたことが良い結果につながったと考察される。しかし、ピクトグラムを見て理由とともに意見を述べる問題の結果で全体的に苦手意識が顕著に現れた。これからの授業作りの大きな課題と考えられる。

< 質問紙調査結果の概要 >
○規範意識・・・本年度は、「学校の規則を守っている」の項目については肯定的に回答する生徒が昨年に比べて大きく増加し、規範意識の高まりが確認された。
○生活・学習習慣・・・家庭学習は塾に時間を割くため、宿題などの質問項目に対して例年課題となっているが、全国平均との差は年々小さくなって改善されつつある。
○自己有用感・・・例年課題が残る項目である。
○教科学習への関心度については、国語が全国平均を大きく下回った。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

封筒の書き方を理解して書く

四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。【全国中学生新聞】に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書でいねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。
条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

	正答率	無解答率
本校	60.4	3.7
全国	56.8	5.6

(考察)
1, 2年で、葉書の書き方やお礼状の書き方などについて授業内で取り扱ったことがあったため、基本的な宛名書きは定着し、全国平均を上回ったと考えられる。

【課題】

「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首選び、感じたことや考えたことを書く

三 「みんなの短歌」に掲載されている内山さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選び、(どの短歌を選んでかまいません)、その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、「**選者より**」を参考にしながら、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。
条件2 条件1で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

	正答率	無解答率
本校	89.6	3.7
全国	91.2	1.7

(考察)
全国平均に比べて、情景や心情を書くという条件を満たしていない生徒が多い。特に条件1を満たせていなかったため、心情と情景を明確に書き表す力が足りなかったと考察する。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

4 反比例の表から式を求める

4 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6	X	-6	-3	-2	...

	正答率	無解答率
本校	61.2	5.2
全国	48.9	10.4

(考察)
反比例の表から、 $x \cdot y$ の関係を式で表す問題である。苦手にしてきた関数であるが、普段の授業で説明する力の向上に取り組んでいたため、何を表しているのか考える力が定着したと考察する。

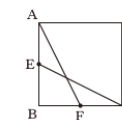
【課題】

7 (3) 四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF=CE$ になるかを説明する

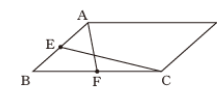
(3) 真由さんは、これまでに調べたことを、次のようにまとめました。

まとめ

◎「正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立つ。



◎「平行四角形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立たない。



上のまとめから、「四角形ABCDが正方形ならば、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立つことと、「四角形ABCDが平行四角形ならば、 $AF=CE$ になる。」ということが成り立たないことがわかります。
正方形でない四角形で、 $AF=CE$ になる四角形ABCDを考えます。四角形ABCDがどんな四角形ならば、 $AF=CE$ になりますか。「ならば」という形で書きなさい。

	正答率	無解答率
本校	55.2	13.4
全国	53.6	17.6

(考察)
結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかを問う問題である。全国平均と比べると本校正答率は高かったが、条件は理解しているものの、それらを活用して応用する力が練習不足だったと考察する。

【成果】

9 (2) 連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの証明を完成する

(2) 二人は、連続する4つの奇数や5つの奇数の和について考えることにしました。若菜さんは、連続する5つの奇数には中央の奇数があることから、中央の奇数に着目して連続する5つの奇数の和について調べました。

1, 3, 5, 7, 9 のとき $1+3+5+7+9=25=5 \times 5$
 3, 5, 7, 9, 11 のとき $3+5+7+9+11=35=5 \times 7$

若菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想2

連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍になる。

上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

n を整数とすると、連続する5つの奇数は、 $2n+1, 2n+3, 2n+5, 2n+7, 2n+9$ と表される。それらの和は、

$$(2n+1)+(2n+3)+(2n+5)+(2n+7)+(2n+9)$$

=

	正答率	無解答率
本校	72.4	10.4
全国	59.7	17.8

(考察)

証明で事柄が成り立つ理由を説明することができるかを問う問題である。普段の授業で説明する力の向上に取り組んでいたため、基本的なことを説明する力が定着していたと考察する。

<英語>

成果や課題があった設問

【成果】

8 食料問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く

英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

	正答率	無解答率
本校	17.9	24.6
全国	10.9	27.9

(考察)

難度の高い問題であるが、正答率が全国、都道府県正答率を大きく上回った。普段の授業から、場面を考えた多種類の英作文を4人班活動で多く学習する機会があったためだと考察される。

【課題】

8 (3) 図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ

前ページの図書だよりの下書きには、わかったこととして次のことが書かれています。

- 平日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が20分以上です。
- 休日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が0分です。

このことは、図書だよりの下書きにある平日1日あたりの読書時間と休日1日あたりの読書時間の、ある値に着目することでわかります。その値が、下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

- ア 平均値
- イ 中央値
- ウ 最頻値
- エ 最大値
- オ 最小値



	正答率	無解答率
本校	55.2	0.0
全国	53.6	1.0

(考察)

問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができるかを問う問題である。全国平均と比べると本校正答率は高かったものの、1年の学習分野であり、2・3年で取り扱わないため、定着していなかったと考察する。

【課題】

10 学校を表す2つのピクトグラム(案内用記号)の案を比較して、どちらが良いか理由とともに意見を書く

海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (, や ? など) は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】 10

	正答率	無解答率
本校	0.7	5.2
全国	1.8	8.3

(考察)

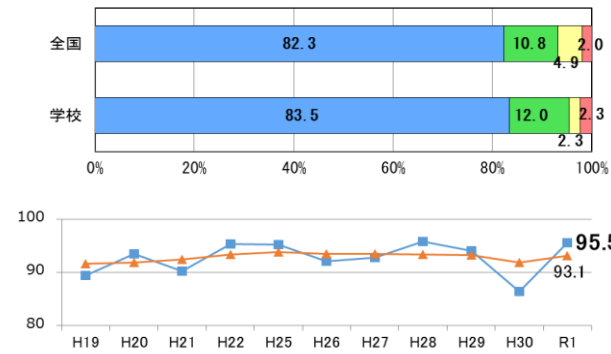
「ピクトグラム」という内容や、問題の意図が理解できていなかった生徒が多かったと考えられる。内容を読み取り、時間内に答えられる実践的な運用力が不足していると考察される。

質問紙に関する調査

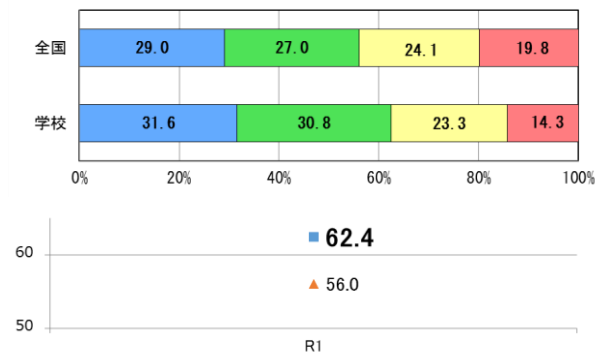
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

朝食を毎日食べている

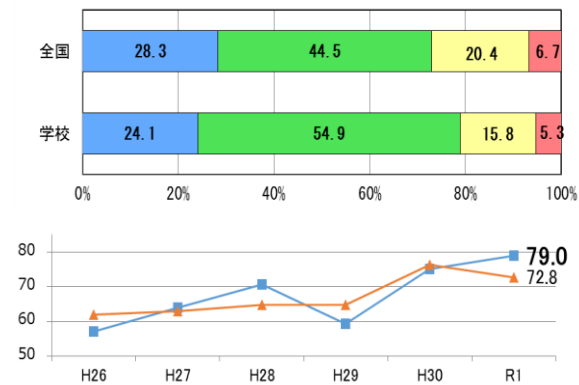


英語の勉強は好きだ



▲ 全国
■ 本校

学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。



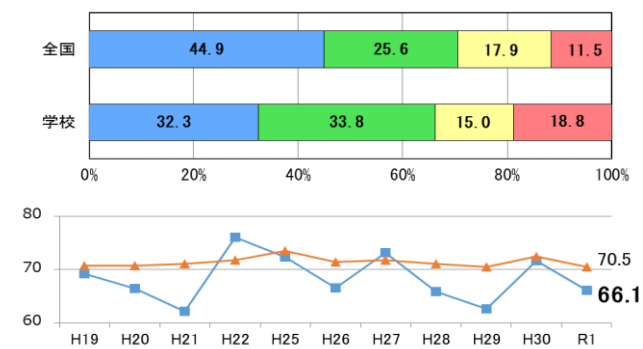
(考察)

学校の規則を守っているという項目が100%近くあった。落ち着いた環境で学習することが、学力の基本であり、実現できている。

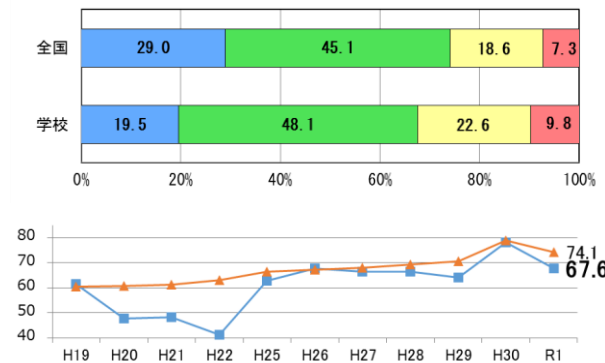
一昨年度から4人班を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開していることから、「自分の考えがうまく伝わるよう発表することや」、「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」については、その成果が表れている。

【課題が残った項目】

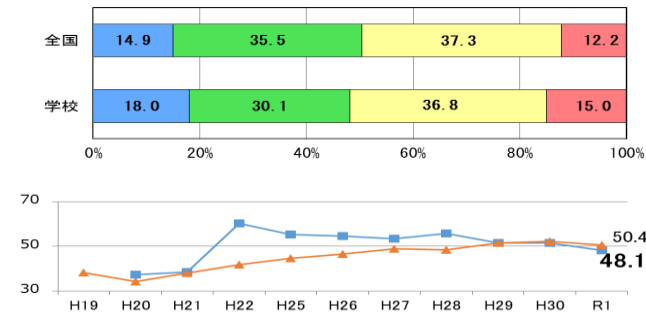
将来の夢や目標を持っている



自分にはよいところがある



自分で計画を立てて勉強している



(考察)

「自分には、よいところがあると思う」、「将来の夢や目標を持っている」等「自己有用感」の項目については、課題があった、また、学習面の「自分で計画を立てて勉強している」の項目についても課題として残ったが、今年度、少しずつ改善されてきている。学習習慣や生活習慣、学習に関する意欲や態度は全国平均並みであり、クラス活動やクラブ活動に対して積極的に参加し、学校は楽しいと答える生徒が多く、学力的にも生徒指導面についても、落ち着いた学校環境であると言える。

<平成31年度調査の領域名と生徒質問紙の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	中学校生徒質問紙対応領域・項目番号
I	教科学力	1 国語
		2 数学
		3 英語
II	学習に対する興味・関心等	4 国語への関心等 (40)~(43)
		5 数学への関心等 (49)~(52)
		6 英語への関心等 (54)~(57)
III	規範意識・自己有用感	7 規範意識 (13) (15) (16)
		8 自己有用感 (5) (6) (8)
IV	生活習慣・学習習慣	9 生活習慣・学習習慣 (1)~(3), (17)

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

子どもの学びをより確かなものになるようにするために、(1) 学ぶことに興味や関心を持ち「主体的な学び」を実現する。(2) 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を実現する。(3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現するために、本校では次の3点に重点を置き、全校的に教育活動の取り組みを進めてまいります。

(1) 授業改善について

4人班を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開して3年目に入り、自分の考えがうまく伝わるようまとめたり、発表したりすることについてはその成果が着実に出てきている。しかしそれだけでなく、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、学習内容や教科独自の醍醐味に興味を持たせるような授業をめざし、各教科部会をさらに活性化させ、協同学習の研究を深めていく。また、今年度より導入されたタブレットPCを有効に活用し、これまでの取組をより深められるよう研修・研究を行っていく。

(2) 学習規律

平成18年度よりノーチャイム制を導入しており、全校生徒に定着している。授業においても、おおむね落ち着いて受けられている。また、学校ユニバーサルデザインの取り組み等、学習環境の改善も引き続き行っていく。

(3) 家庭学習と学習習慣の改善について

家庭での学習習慣の定着と自学自習力をつけるために取組を始めて3年目になるが、今年度は『家庭学習ファイル』を作成し、全学年で毎日取り組んでいる。また、内容は基礎学力を定着させるようなものを各教科で精選し、保護者にも協力を求めながら、行っていく。自主学習については、さらに方法・内容等を検討し、生徒が自ら考え、積極的に取り組めるように改善していく。

学習習慣と基礎学力の定着を支援していくために、今年度はそれが行えない状況にあるため、例年行っている夏季学習会をより充実させたり、各学年で学期に一回程度、放課後学習会を開いたり、支援を行っていく。